

平成 30 年度 第 1 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

1st Activity Report, February 2018: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 30 年 2 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 (主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

<直近の活動実績>

1 月 26 日：定例会開催

[場所：豊洲センタービル 21 階 B 会議室]

作成中の「『ICT スマートタウン』導入・展開のためのガイドライン」、および、研究会フォーラム案についてディスカッションを実施しました。

[議事内容]

- ① 研究会フォーラムについては 5 月実施を目途に関係各所との調整を行う。
- ② 講演予定者について最終調整を行い、確定させる。

<今後の活動予定>

3 月中旬：定例会開催予定

【詳細問合せ先】yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(2) PM 人材育成研究会

(主査：黒木弘司 筑波大学)

これまでステークホルダーについて継続して議論を行っており、「キャリア・アンカー」等の様々なプロジェクトマネジャーに関わる人間関係について議論してきました。

12 月度 (2017/12/26) は、2018 年度の研究会の

テーマの選定の検討、および、新しい体制について議論しました。

これまでの研究会の活動は、各参加者のプロジェクトマネジメントの実践を中心に研究にしてきましたが、今後は教育学、心理学、経営学等のアカデミックにも目を向けていくことになりました。特に実践で学んできたことをアカデミックにどう捉えるか、またアカデミックで研究した内容を実践でどのように活かしていくか等の活動をしていきたいと思います。その中で「人間の行動原理に基づく PM のモチベーションの整理」や「組織と個人の関係を意識した PM の在り方」についても検討したい等の意見もでした。

1 月度 (2018/1/18) は、2018 年度の研究会のテーマの決定と内容の検討を行いました。プロジェクトを成功させるために、ステークホルダーに好ましい態度や行動をとってもらうにはどのように働きかければ良いのかを考えるためには、まずは「人は何に基づいて行動するのか」を理解することが必要であると考え、2018 年度のテーマを「人間の行動原理」としました。

2 月度は、「人間の行動原理」の中の、どのエリアに焦点を当てて研究を開始するかについて検討を行う予定です。

<今後の活動予定>

2 月 8 日：研究対象の絞り込み

3 月 8 日：対象に合わせて研究

4 月 12 日：対象に合わせて研究

5 月 10 日：対象に合わせて研究

6 月 14 日：対象に合わせて研究

【詳細問合せ先】pmcom2016@freeml.com

(3) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動しています。

<直近の活動実績>

1月17日：定例会開催



定例会の様子（1月17日）

株式会社富士通ゼネラルの佐藤光弘様をお招きし、同社の「健康経営の取り組み」についてご講演頂きました。

まず「今、なぜ健康経営なのか？」という問いから始まり、「社員の健康は会社の重要な資源である」、「(健康経営の活動は) コストではなく投資である」の考え方をベースに、日本の人口推移、ビジネスのグローバル化、企業価値の変化などをご説明頂きました。

次に富士通ゼネラル社での取り組みのご紹介として、人事制度改革を行う中で、どのように健康経営を取り組み、どうやって他者を巻き込んでいったのか、立ちちはだかる壁とそれを打ち破るちょっとした工夫とエネルギーなどについて、私たちの活動に大きなヒントを頂いた貴重な時間でした。

<今後の活動予定>

- 2月21日：定例会開催予定
- 3月20日：定例会開催予定
- 4月18日：定例会開催予定
- 5月16日：定例会開催予定
- 6月20日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(4) プロジェクトのデータ解析と見残り研究会 (主査：梶山 昌之 ワイハット)

当研究会の学習・研究テーマとしては以下の6つになります。

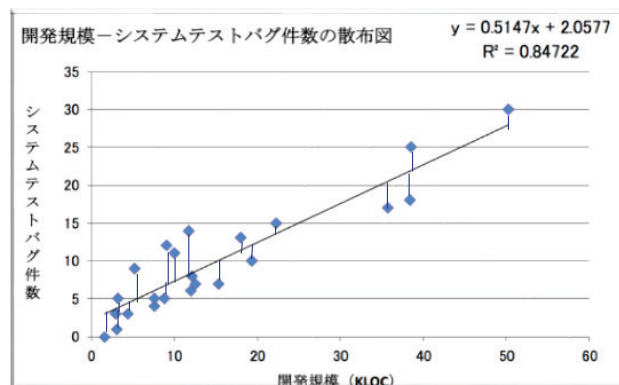
- ① 要求を仕様化する技術
- ② R言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

⑤ 人工知能と機械学習

⑥ Python の学習と活用

上記のトピックの中でも、現時点では、③～⑥に力を入れています。

下図は開発規模(KLOC)とシステムテストバグ件数の関係ですが、回帰分析の手法により、開発規模からバグ件数を予測する式が得られます。



小池利和: “ソフトウェアメトリクス統計分析入門” より引用

この式は統計的に使っても問題ないでしょうか。それを判断する方法などを検討しました。また、開発規模は、指数的な変化を伴う量であるため、この場合にも、そのまま回帰分析を使用してよいかなどについて議論しました。

<直近の活動実績>

11月29日：定例会開催予定

1月17日：定例会開催予定

<今後の活動予定>

2月14日：定例会開催予定

3月13日：定例会開催予定

4月10日：定例会開催予定

会合は1回／月（原則として第2火曜日 18:30~20:30）開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。

当研究会では過去の学習コンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(5) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

現在は、暫定的に隔月の例会開催になっており、11月の例会が中止になった代わりに、12月21日に第44回の例会を開催しました。今回は、ゲストスピーカーは招聘せず、参加者がそれぞれフロンセスPMに関する話題を提供し、そこから全員によるディスカッションを行いました。2018年の活動計画についての意見交換もいたしました。

2018年最初の会合が1月18日に開催されました。今年の研究テーマとして文化(国、地域社会、会社の風習・伝統・思考方法・価値観などの総称)がアジャイル開発に与える影響を取り上げ、文献調査、有識者へのインタビュー、ワークショップ等を通して研究を進め、今期末を目途に成果発表をする予定です。

<今後の活動予定>

3月15日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(6) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行なっています。2018年は、

- ・リスク・マネジメント教育
- ・テキスト分析を用いたリスクモデル

をテーマとして、活動を行います。次回は、2月15日を予定しております。現在、新メンバーの募集を行っておりますので、本テーマに興味のある方は是非ご参加をお願いいたします。

<今後の活動予定>

2月15日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(7) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査：横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方は品質管理だけではなく様々な活動にも援用することができます。プロジェクトを円滑に進める際にも、情報の共有や知識の蓄積のために QFD の活用は有効です。当研究会では、研究会メンバーから提示される実際の現場における課題について QFD の応用という観点から議論を重ねています。

研究会の初期の段階では、顧客あるいは依頼先の要望を如何に誤解せずさらに漏れなく設計に反映するかについて議論しました。そして新しい QFD のフレームなどを開発しました。さらに、要求品質の本来意味するものは何か、それを理解す

るためにステークホルダーをどのように整理したら良いのかなどについても議論しました。

最近では、QFD 手法の開発のみならず、プロジェクトの進捗管理のための情報の定量化や QFD を活用したシステム設計、さらにリスク分析など、様々なテーマに積極的に取り組んできました。

QFD 応用研究会は、2004 年開設以降、成果を研究会フォーラム、研究発表会や国際会議において発表してまいりました。多大なご支援をいただいておりますこの活動を、この3月をもって終える予定としております。3月までの研究会は、これまでの活動を振り返る場として開催することを予定しております。ご興味のある方は是非ご参加下さい。

<今後の活動予定>

2月23日：定例会開催予定

3月23日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 yokoyama.ims.tcu@gmail.com

2. 新研究会設立のご案内

近年、人工知能 (AI: Artificial Intelligence) が話題になっていますが、その本質はどのようなものとお考えでしょうか。また、AI をビジネスまたはプロジェクトマネジメントに活用する方法を検討中の方も多いと思います。一方、ディープラーニングに代表される機械学習のモデルがいつも優れているとは限らず、従来型の統計モデルを適用すべき場面もあります。そこで、AI と統計モデルの両方を対象とした学習、研究を行うため、

「人工知能(AI)と統計モデル研究会」

を設立しました。

統計学、人工知能については、これから学習しようという方でも大丈夫です。参加者のレベルに合わせて基礎から学習することができます。また、知識と経験が豊富なメンバーも在籍していますので、相互に啓発しながら学びましょう。

東京都内にて、月に1回の会合を予定しています。興味のある方は、下記宛にご連絡ください。

kajiyama@yhat.co.jp

会合の予定、学習・研究の内容など、詳細をご連絡します。

<趣旨>

プロジェクトの規模、工数、コスト、工期、品質、リスクなどの、プロジェクトのマネジメントに関係する諸量を定量的に把握し、見積りおよび

プロジェクトの定量的管理に活用するためには、メトリクスの統計的な分析と予測モデルの構築が必要となります。

この予測モデルは、従来は主として、重回帰分析などの統計モデルとして取り扱われていましたが、近年は人工知能(AI) または機械学習によるアプローチも行われています。しかし、どのような課題に対して AI または統計モデルのいずれが適しているのかは良く知られていません。

本研究会は上記の状況に対応し、AI および統計モデルの両方を学び、各種の課題への適用を試みることによって両者の本質を理解します。AI は応用範囲が広く今後の社会でも重要な技術となっているため、これをビジネスに活用する研究を行います。

<主査、副査、幹事>

主査：梶山昌之 株式会社ワイハット *1

副査：楠本真二 大阪大学教授 *2

副査：押野 智樹 一般財団法人経済調査会

幹事：藤井 英章 日本アイ・ビー・エム

*1: PM 学会 学会誌にて「データをビジネスに活用する実践アナリティクス」連載中

*2: 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」ビッグデータ・AI 分野 代表者

3. その他

活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会 委員長 岡田 公治

研究委員会 副委員長 井沢 澄雄

研究委員会 担当幹事 高田 淳司